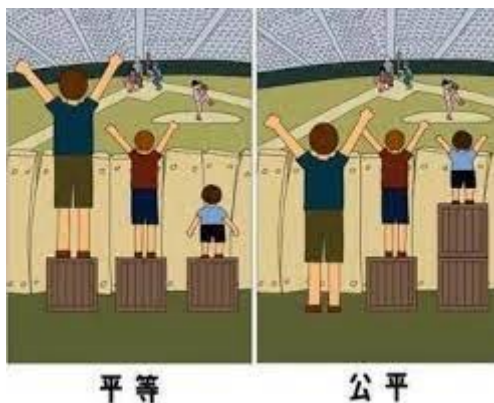


2022/7/23-2

(うと Q 世話し 似て非なるもの) 書庫版



似て非なるものほど腹立たしいものはありません。

全く違うのなら未だしも諦めがつくのですが

「本物だと思っていたのに全然違った」

「がんもどき」位なら未だ許しもしますが只々紛らわしいだけで「本物」と思っていた分裏切られた感と当惑感が深く腹立たしくなります。

例えば「男女平等」

是が「男女同権」の意なら全く異論はないのですが「男女均一化」を表すなら全然話が違ってきます。

この「男女均一化」を分り易く言えば「男女中性化」

「男なんだか女なんだか今イチ、ピンと来ない」

極言すれば「異性として何も感じない」

それをやんわり別称で「草食系」や「醤油味」

安全には安全だけど安全過ぎてどうも興味や食欲をそそらない。

男女の話を出すと「メクジラ」を立てる方もおられそうなので子供の話をする。

「大人目線ではなく子供目線で」

という謂い方があります。よく使われる言い方です。

で、是を大人が勘違いして「大人が子供になろうとしてしまう」事があります。

しかし子供から見ますと相手に子供が欲しいなら本物の子供がいい訳でなにも「子供モードの大人」なんていない訳です。

そのように似て非なるものは。

これは会社の上司と部下の関係にも当て嵌りそうです。

「部下の気持ちになって」

で部下の殺生与奪の権を持っている癖に上司が恰も部下の味方であるかの様に近づいてきたら、

「嘘をつけ。紛らわしい真似は止めてくれ。キモイ」

となってしまうませんか？

ひょっとしたら皆そういった似て非なる嘘に無意識ながら、いい加減ウンザリしているのではないかと思い、試しにその裏返しの「ドギツイがその方が未だしも許せる」かもしれないモロ「男で、大人で、上司」を lapping 無しに直球勝負でぶつけてみました。

実験としてサンプル1では不味いのでサンプル15の規模で。

勿論一球で逃げた人もおりました。

しかし意外な事に戦績は8勝7敗。こんな事を試みる位ですから流石に全敗とは思っておりませんでした。勝ち数の方が負け数より上回ったのは全く意外でした。

但しこの戦績には一つの隠し球がありました。

「ドカン」とやった後、間をおいて

「あの時のドカンはこういう事が言いたかったんだ」

と言う「隠しフォロー球」

それで最後8勝7敗になったという訳。

同時刻で、AかBかと言われたらどちらか選ぶしかありませんが、時間差を設ければ今は兎に角もAのドカンを言わせて貰い、後にBの言い分を受け入れる事でA、B両方が成立する事もできる訳です。

Aも言いたい事を言ってストレスを溜めなくて済みますしBもちゃんと、ドカンをやられた説明をAから受けた後で、自分の意見を言う機会を得られます。

同時刻に無理矢理成り立たせ様とする余り、思考の無意識な端折りや押付けによる似て非なるものを知らない内に発生させてしまう例が多い様な気がします。

回避法として時間差の活用も一つの手だとは思いますが…